



**平田藤義（ひらた・ふじよし）**

1945年2月3日生 鹿児島県与論町出身

1967年～1972年、KURASHIKI ブラジル： 電気・水・ボイラ担当主任

1973年～1997年、ROHM Indústria Eletrônica Ltda. (略称 ROHM I.E.L：ローム電子工業/ブラジル日本商工会議所登録通称名はROHM (ローム))：生産管理課長/製造部長/工場長/副社長/社長 (1996 年～)

1997年6月30日、生産活動から全面撤退し全従業員を解雇後に退任。

2002年6月3日～ ブラジル日本商工会議所の事務局長として現在に至る。

(会議所活動の実績は全てサイトに掲載済みのため省略)

現住所: Rua São Carlos do Pinhal, 608 - ap.53 - São Paulo-SP 01333-000 Brasil

**その他の活動歴**

1969年～ 於 KURASHIKI ブラジル：従業員クラブ (『Grêmio』) 会長、社宅の在日系コロニア子弟のための土曜 日本語学校塾の開設

1973年～ 於 ROHM I.E.L (ローム電子工業)：ブラジルに於いてはじめて Johnson&Johnson 社とローム電子工業が人材育成を目的とした日本のQCサークル活動を導入、双方の社内QCサークル大会の開催を通じ相互啓発しながら啓蒙普及。

1974年、Johnson&Johnson、GM、Embraer、CTA、Kodak、Alpargatas 社等の周辺地域企業と共に「国内市場のみならず輸出市場に於いてもブラジルはただ単に物を造れば良いと言うのでは無く、標準化を行い科学的な統計的手法を用いて高品質の製品を造り込み、国内外の熾烈な競争市場で消費者に高い信頼性と受け入れ可能なコストで供給する」を理念に掲げ、サンパウロ州サンジョゼ・ドス・カンポス市に民間団体としてはブラジルで初めて品質管理協会(AVCQ：Associação Valeparaibana de Controle de Qualidade)を創立、理事に就任。

1976年、同協会の副会長に就任。1976年に第1回日伯QCセミナーを日本科学技術連盟（石川 馨団長：日本では当時「QCの父」として有名）とAVCQが開催、サンパウロ州内の地域および他州にも品質管理活動の啓蒙普及。

1978年、日本の戦後経済復興に尽力したアメリカのデミング博士と伴に2大貢献者として知られる著名なアメリカ人、ジュラン博士をAVCQ本部に招待しQCセミナーを開催。

1981年/1983年、一般財団法人日本科学技術連盟（略称：日科技連、Union of Japanese Scientists and Engineers (JUSE)）のFQCチームがローム電子工業を訪問、交流会を開催。（日科技連は隔年交互に北米回りと欧州回りのFQC (Foreman Quality Control) チームを派遣、全世界的に日本のQC活動の紹介と交流促進）

1982年、第1次ブラジルQC代表团（全国から募集）の一員として日科技連主催（東京）のQCセミナーに参加。

1985年、アンニャンゲーラ地区QC協会(AACQ)と交流会を開催、ローム電子工業のQCサークル・チームを引率、TQC（トータル・クォーリティ・コントロール）とXY理論の関連性およびブラジルにおけるQC活動導入実績例について講演。

1985年、日科技連とUBCCQ (União Brasileira de Controle de Qualidade:ブラジルQC

サークル連盟）が開催した「企業繁栄を保証する品質戦略のTQCセミナー」にローム電子工業のQCサークル・チームが参加・発表。日本からは日科技連を代表し石川馨先生以下QCミッションが参加。

1988年、「ゼロ・デフェクト」へのチャレンジにあたってTPM（※）の導入のため公益社団法人 日本プラント・メンテナンス協会からTPMの創始者である中嶋精一先生にローム電子工業の工場診断を仰ぐ。

（※）TPMとは

社団法人日本プラントメンテナンス協会サイトから引用：TPM（Total Productive Maintenance「全員参加の生産保全」）とは、社団法人日本プラントメンテナンス協会によって1971年に提唱されました。TPMは、「生産システム効率化の極限追求（総合的効率化）をする企業体質づくりを目標にして生産システムのライフサイクル全体を対象とした「災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロ」などあらゆるロスを未然防止する仕組みを現場現物で構築し、生産部門をはじめ、開発・営業・管理などのあらゆる部門にわたってトップから第一線従業員にいたるまで全員が参加し、重複小集団活動により、ロス・ゼロを達成すること」と定義されています。

2002年～ 於 ブラジル日本商工会議所：

2005年、「現代ブラジル事典」に執筆寄稿およびブラジル側執筆者100人のコーディネート。

2008年、日外協の月刊グローバル経営情報誌5月号「現地報告—ブラジル経済最新情勢」に寄稿。

2009年、会員企業Emdoco社と会議所による「ブラジルと日本—移住及び査証」（日本語/ポル語/英語）の出版企画/監修コーディネート。

2010年、田中国重 与論町教育長著書「吉田松陰の現代化」に「ブラジル発、祖国日本・故郷と論への提言」と題して特別寄稿。

2010年、日本語版のブラジル日本商工会議所70周年記録集編纂作業/出版企画・校正・監修作業。（70周年記念委員会）

2011年、ポル語版のブラジル日本商工会議所70周年記録集翻訳編纂/出版企画・校正・監修作業。（事務局）

2012年、会員企業のPwC監査法人と会議所による会計用語集（日本語/ポル語/英語）の出版企画コーディネート。

2013年、日ポ両語ブラジル略語集（巻末付録：ポ日・日ポ会計用語集）の出版企画・校正・監修作業およびコーディネート。

2013年、会員企業のPwCと会議所によるビジネス用語集（日本語/ポル語/英語）の出版企画コーディネート。

2015年、2016年度版「現代ブラジル事典」の出版コーディネート。

2019年、世界が感謝！「日本のもの」（著：「ニッポン再発見」倶楽部、出版：三笠書房）のポルトガル語翻訳版『O MUNDO AGRADECE! COISAS DO JAPÃO』のあとがき執筆。

2021年、浜口伸明神戸大学経済経営研究所教授著 「日本・ブラジル経済交流史再訪：日本的品質管理の普及」（22頁）執筆情報提供協力

2022年、同教授著「Brazil-Japan Cooperation: From Complementarity to Shared Value」（215頁）に執筆情報提供協力

＜賞罰・その他＞

2013年11月平成25年度在外公館長表彰受賞（サンパウロ）

2020年12月令和02年度外務大臣表彰受賞（サンパウロ）